

静岡サレジオ高等学校



体験授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和7年12月16日(火)

静岡サレジオ高等学校の生徒が、昔の人々の暮らしを体験することを目的に、センターの仕事についての講義を聞き、展示室見学を行いました。

センターの仕事と 発掘調査の話



<生徒の感想>

センターの人たちのお話を聞き、遺物の保存の大切さや遺物の修復のやり方、その遺物が使われていた時代の考え方などを学ぶことができた。実際に展示された遺物を見てみると、当時使われていた形がほとんどそのまま綺麗に修復されていたため、技術力の高さに感銘を受けた。また、完全に修復してあったために当時の人たちの創意工夫をよりそのまま感じる事ができた。昔の人たちは現在の高度な技術がない状態で暮らしていたため、石や土を効果的に使って暮らしていたことが遺物からわかり、とても頭の良さを感じた。途中でスタッフの方が土器の話を補足してくださったことも勉強になった。現代に近づくとだんだんと今でも馴染みがあるものも出てくるようになり、時代の流れを物から感じられるようになった。

実際に遺物を修復している姿も見せていただいた。細かい断面をぴったり合わせようと試行錯誤している姿など、皆さん顕微鏡を使いながら非常に繊細な作業をしており、少しでも綺麗に保存しようと最善を尽くしている姿に感動した。また、フォトスタジオを見学した際には部屋のすべての要素が撮られる写真一枚のためにできていたところや、鮮明な写真が撮れるように光や影の調整をミリ単位でやっている姿にスタッフの皆さんの全力を感じた。このような人たちがここで働いてくださっているから私達は今日本の文化を体験することができるし、日本の歴史を詳しく学ぶことができるのだと感じた。日本の歴史を裏で支えてくださっている人たちを知ることができて良かったと思う。

この度の埋蔵文化財センターへの見学は何度目かの機会であったが、これまでに比べて広い範囲かつより興味をもって活動を行うことができた。前は小学生であったために世界史、日本史どちらの知識も浅く断片的なものとその解説という形でしか捉えることができなかったが、今回は年代を確認し、同年代の世界と比べながら考えることができた。無論、日本史としての視点は予習していなかったゆえ解説を読みながら新しい知識もまた得ることができた。特に、しゃちほこのもととなった構造物といった由来について知ることができたことは面白かった。また、世界史では女性裸像といったものを暗記するが、日本においても石棒といった性を対象とするものがあつたことに共通点を感じた。解説を見ても、ものの役割を確定させることはやはり歴史家の領分であり形などから解釈していることは印象に残っている。全体的には、これまでとは違った視点で今回の見学を終えることができ、日本史の視点から見るができなかったことは反省点ではあるが、一貫して良い学びの一つであった。



展示室の見学



<生徒の感想>

私が住んでいる近くで発掘されたものがいろいろと展示されており、歴史を身近に感じることができました。発掘されたものを修復したり、写真として残しているところを実際に見て、静岡市でこういった作業を行っている場所があったことに驚きました。そして、写真の写し方の工夫や真っ黒な壁の部屋など様々な設備が整っていて、記録を正確に残すことがいかに重要であるかを実感しました。また、発掘現場の写真を見たときに、地層から数え切れないほどの茶碗などが見えて、一箇所の発掘現場からこんなにもたくさん遺物が出てくることに驚きました。そして、最も衝撃的だったのは、掘り出した遺物を記録したら、もとの場所に埋め直すということです。せっかく掘り起こしたのだからずっと取っておいたほうがいいのではないかなと思ってしまいますが、保管場所のことを考えるとやむを得ないと思いました。一度埋めてしまった遺物があとになって、歴史的な大発見だったりしたらもう一度掘り起こして探すのか疑問に思いました。見学から、いくつもの物的証拠から歴史を考えていくことの難しさを感じると同時に、それが歴史のおもしろさでもあることを実感しました。まだしっかり目を通していない展示もあったので、ぜひまた見に行きたいと思います。

今回は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

考古学に関する説明、埋蔵品の修繕作業や報告のための撮影などの見学をさせていただきました。見学の中では、埴輪の役割として「自分の身代わりとして供える」ということを教えてくださいました。埋蔵品の発掘調査における手続きなどについてもたくさん質問に答えてくださいました。自分の想像だけでは補えない知識をたくさん得ることができ、考古学あるいは歴史学を学ぶ意義について考える機会になりました。

弥生時代前後を見学している中で、時代ごとの皿や武器などの埋蔵品を見て、クラスメイトと「これ人間っぽい!」という感想を交わすことができました。私は見学を通じて、自分が違う時代に生きた人々を遠い存在だと認識していた、あるいは誤った認識から自分よりも昔に生きた人々を軽視していたのかもしれないと気づきました。漠然と、文章として縄文時代からの歴史の変遷は理解していたつもりでしたが、今回の体験を通じて改めてその時代、その時に生きた「人」を見させてもらっているのだなと感じました。そしてその「人」というのも私達と同じ人間であると気づくことができました。



<先生方の感想>

昨年に引き続き、この度はありがとうございました。授業に余裕があったので見学させていただきましたが、知的好奇心の高い集団だったので、見学に行きたいかどうか募ったところ、行きたいとの解答が多数だったため連れてきました。静岡では県立美術館はあるものの、歴史的な実物史料に触れる機会はありませんように感じます。生徒たちも興味津々だったので、このような機会を欲していたことがわかりました。来年度もタイミングが合えば連れてきたいと思っています。

